

特集：eラーニング環境のデザインと実践運用 — 語学教育・国際交流 —

SNS 機能を備えた英語多読支援システムの開発と運用

佐藤 太紀*, 若杉 朋範*, 五月女 雄一**, Mark Brierley***,
國宗 永佳****, 新村 正明****, 不破 泰*

Development and Operation of English Extensive Reading Support System with Social Networking Functions

Hiroki SATO*, Tomonori WAKASUGI*, Yuichi SAOTOME**, Mark BRIERLEY***,
Hisayoshi KUNIMUNE****, Masaaki NIIMURA****, Yasushi FUWA*

1. はじめに

多読とは、文章を分析しながら読むのではなく大意を把握するような読み方により、読解力や語学能力を高める学習方法である。英語教育においては、児童向けの簡単な英語の本から開始し、多く本を読むことにより英文の読解力を養うものであり、高い教育的効果があることが報告されている⁽¹⁾⁽²⁾。

信州大学においても、英語教育の一環として多読学習が取り入れられており、1年次の全学部学生を中心に、1,000名以上の学生が多読に取り組んでいる。

多読の効果を高めるためには、自発的かつ継続的に多くの本を読み進めることが必要であり、多読に対するモチベーションの維持が必須となる。

このモチベーション維持のためには、学生が本を選択する際に

- ・読みやすさ(レベル)
- ・面白さ(分野)

が適切でなければならないと指摘されている⁽¹⁾。

このような本の選択に対しては、少人数教育であれ

ば、指導教員が学生に対して「レベル」「分野」を考慮した本の選択を指導することが可能であるが、信州大学で展開されているような1,000名を超えるような規模では、学生個人に適切な指導を行うことは、非常に困難である。

しかしながら、多読に参加する学生が多いことは、指導教員による個々の学生に対する指導は困難であったとしても、各学生が持つ「レベル」「分野」に関する情報を共有することで、本との出会いの幅が広がり、自らに適した本を見つけやすくなる。これにより、継続的な学習につながると考えられる。

また、これまでに読んだ本の履歴といった、自らの学習状況を他の学生と共有することにより、他の学生との学習状況の比較等を行うことが可能となり、自発的な学習につながると考えられる。

本研究は以上の背景の下に、多人数の多読学習者に対して、学生間の情報共有により新しい本との出会いを提供し、多読に対するモチベーションの維持を図る多読支援システムの開発を行うことを目的とする。

*信州大学大学院工学系研究科 (Graduate School of Science and Technology, Shinshu University)

**ニフティ株式会社 (NIFTY Corporation)

***信州大学全学教育機構言語教育センター (Language Education Center, School of General Education, Shinshu University)

****信州大学工学部 (Faculty of Engineering, Shinshu University)

受付日：2009年5月14日；再受付日：2009年8月15日；採録日：2009年10月27日